

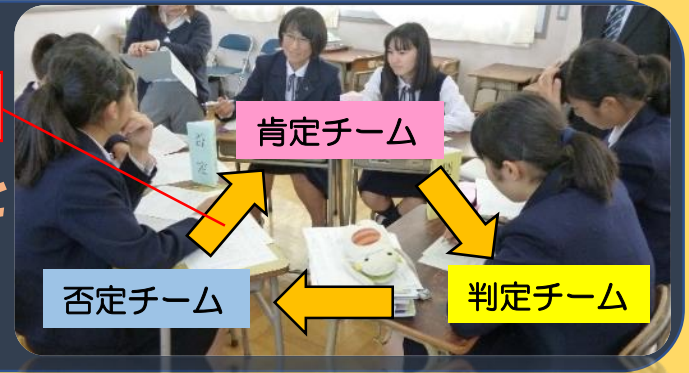
# 文章に対する考えを 広げたり深めたりすることができる生徒の育成 —国語総合におけるマイクロディベートの活用を通して—

特別研修員 国語 引田遥子（高等学校教諭）

本研究における  
マイクロディベートとは

一単位時間内で肯定・否定・判定の役割を  
全て経験する、少人数で行うディベート。

役割をローテーション



生徒の  
実態

文章に対する考えが一面的・意見交換が表面的

手  
立  
て

マイクロディベートの活用

①肯定・否定の  
対立する二つの  
立場から立論す  
るために、両方  
の視点から意見  
を考える。  
★肯定・否定のどちら  
も考えられるテーマを  
設定する。

④マイクロディ  
ベートで触れた他  
者の意見を参考に、  
実施前に書いた自  
分の意見を見直し、  
考えを深める。  
★更に考えを広げ、深め  
られるよう、他の生徒と  
意見交換する活動を設け  
る。

## STEP 1 準備

肯定・否定の対立する二つの立場  
から立論を考える

【ペア・個人】

→考えをもつ

## STEP 2 実施

肯定・否定・判定の役割を  
全て経験する

【グループ】

→考えを広げる

## STEP 3 振り返り

他者の意見を参考に、  
自分の意見を見直す

【個人・グループ】

→考えを深める

②立論で考えた  
ことを基に、  
テーマに対する  
自分自身の意見  
を理由を明確に  
して書く。

★自分の意見の変容  
が確認しやすいワー  
クシートを活用する。

③反論・判定の  
ために注意深く  
他のチームの意  
見を聞き、考え  
を広げる。

★議論の活性化のた  
め、作戦タイム・自  
由討論を設定する。

目指す生徒像

文章に対する考えを広げたり深めたりすることができる生徒

## ●成果

- マイクロディベートの活用によって、様々な意見に触れることを通し、考えを広げることができた。また、その意見を基に自分の考えを深めることができた。
- 判定をするために、肯定・否定の意見を聞き、判定基準に照らし合わせるという活動により、比較して判断する力が向上した。

## ●課題

- 同じ意見が出たとしても議論を活発にできる工夫が必要である。
- 判定基準は、生徒が迷うことなく適用できるものにしていく必要がある。